

## 第 5 区

定数 24 名

候補者 24 名

候補者氏名（受付順）

1. 氏名 2. 生年月日 3. 主たる勤務地 4. 経歴 5. 抱負 6. 現職/新任/再任

1. 吉野 一郎 2. 1962/4/21  
3. 国際医療福祉大学成田病院  
4. 1987 九州大学卒 1992 ハーバード大学外科 1995 産業医科大学第二外科 2000 九州大学消化器・総合外科 2007 千葉大呼吸器外科教授 2023 国際医療福祉大学成田病院教授・病院長  
5. 本学会には診療、教育、研究を続ける上で多くを学ばせていただきました。また多くの委員会や理事会にて学会運営に携わらせていただきました。引き続き我が国の外科学・外科医療の発展に貢献したく存じます。  
6. 現職

1. 伊東 浩次 2. 1965/1/8  
3. 総合病院土浦協同病院  
4. 平成 2 年東京医歯大医学部卒。同大第一外科入局。都がん検診センター、九段坂病院、大久保病院、土浦協同病院を経て 2006 年東京医歯大肝胆膵外科助教。2009 年土浦協同病院外科部長、2021 年同病院副院長  
5. 地域の基幹病院としての立場から、外科勤務医の働き方改革、環境改善に貢献し、外科学会の発展に寄与したいと考えております  
6. 現職

1. 鈴木 修司 2. 1965/9/27  
3. 東京医科大学茨城医療センター 消化器外科  
4. 1990 年筑波大学医学専門学群卒業  
1990 年 5 月東京女子医科大学消化器外科入局  
2012 年 4 月同科 講師  
2014 年 4 月東京医科大学茨城医療センター消化器外科 准教授  
2015 年 6 月同科 主任教授  
5. 2015 年 6 月から東京医科大学茨城医療センター主任教授を拝命し、医師不足地域における先進医療の均てん化と地域医療における高度医療、救急医療に取り組んでおり、地域医療の発展維持に努めてまいります。  
6. 現職

1. 原 尚人 2. 1959/9/6  
3. 筑波大学 医学医療系 乳腺甲状腺内分泌外科  
4. 1984 年筑波大学卒  
2008 年より筑波大学乳腺甲状腺内分泌外科教授  
2014-2018 年筑波大学附属病院副院長  
2021 年より一般社団法人日本内分泌外科学会理事長  
2022 年より一般社団法人日本外科学会理事  
5. 日本外科学会理事および日本内分泌外科学会理事長の経験を活かし、常に地域にも目を向け、良質な若手外科医・若手内分泌外科医を勧誘し育て、外科学会・外科サブスペ学会両者の発展に貢献できればと思います。  
6. 現職

1. 平松 祐司 2. 1961/6/21  
3. 筑波大学医学医療系心臓血管外科学  
4. 1986 年筑波大学卒。国内での心臓外科修練を経てペンシルバニア大学留学。1998 年から筑波大学講師。2015 年同教授。附属病院診療担当副病院長、茨城県脳卒中・心臓病センター長兼任。専門は小児心臓外科。  
5. 外科医の地位と生活の質の向上に向けて、働き方改革、ダイバーシティ、施設の集約化などを進め、若手にとって魅力的な外科学会となるよう貢献したい。高い診療能力と研究マインドとを有する外科医の育成に努めたい。  
6. 現職

1. 佐藤 幸夫 2. 1963/11/5  
3. 筑波大学医学医療系 呼吸器外科学  
4. 1988 年筑波大学医学専門学群卒業  
1995 年プリティッシュコロンビア大学留学  
1999 年筑波大学呼吸器外科講師  
2002 年自治医科大学呼吸器外科講師  
2008 年同准教授  
2009 年筑波大学呼吸器外科教授  
5. 日本の外科学を更に発展させその魅力を発信します。また、待遇改善を通じて若手外科医を増やし、外科医の地位向上に向けて尽力いたします。  
6. 現職

1. 坂東 裕子 2. 1972/1/24
3. 筑波大学 医学医療系 乳腺内分泌外科
4. 1996年 筑波大学医学専門学群卒業  
1996年 都立駒込病院  
2002年 GBF（ドイツ）留学  
2004年 東京医科歯科大学大学院博士課程修了  
2004年 筑波大学医学医療系講師  
2013年 同准教授
5. 乳腺外科医/診療医として、また女性外科医として、乳腺診療を取り巻く環境が目まぐるしく進化する中、最善の医療の実践、および未来に向けての礎となる研究の推進に尽力したいと思います。
6. 新任

1. 増本 幸二 2. 1964/2/1
3. 筑波大学 小児外科
4. 1991 九州大卒  
1991 九州大学小児外科、関連病院で研修  
2002 エラスムス大学ソフィア小児病院留学  
2004 九州大学 講師  
2009 福岡大学 講師、准教授  
2011 筑波大学 小児外科 教授
5. 私は小児外科を専門にしています。本邦では少子化が進み対象患者が少なくなる中、手術や管理は高度になっています。そのため高い技術と広い視野を持った医師を育てる必要があります。そのようなよう努力したいと思います。
6. 現職

1. 高屋敷 吏 2. 1970/8/26
3. 千葉大学臓器制御外科学
4. 1996年 千葉大学第一外科入局  
2004年 Research Fellow（Washington Univ.）  
2007年 千葉大学臓器制御外科学 助教  
2017年 同講師  
2023年 同診療准教授
5. これまで経験させていただいた代議員としての学術活動をさらに推し進めるとともに、今後は次代を担う若手外科医の育成にも積極的に参加し、本学会および外科学の発展のために尽力していく所存です。
6. 現職

1. 松宮 護郎 2. 1961/9/26
3. 千葉大学大学院医学研究院心臓血管外科学
4. 1986年大阪大学医学部卒業  
1994年大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了  
1996年クリーブランドクリニック心臓血管外科臨床フェロー  
1999年大阪大学医学部助手  
2009年千葉大学大学心臓血管外科教授
5. 日本外科学会の代議員として、外科学の発展と若手教育、研究、国際協力の強化等に尽力し、患者中心の医療に貢献したいと考え、立候補させていただきます。
6. 現職

1. 大塚 将之 2. 1964/2/10
3. 千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学
4. 1988年千葉大学医学部卒業  
1996年千葉大学大学院医学研究科修了  
1996年ベルギー ルーバンカソリック大学研究員  
2012年千葉大学大学院臓器制御外科学講師  
2016年同教授
5. 高い見識と技術を有し、かつ社会に信頼される外科医の育成と外科学のさらなる進歩を追求することで日本外科学会の発展に貢献したいと考えています。
6. 現職

1. 高野 重昭 2. 1971/10/22
3. 千葉大学大学院医学研究院 臓器制御外科学
4. 1997年 千葉大学医学部卒業  
2007年 千葉大学医学部附属病院肝胆膵外科 助教  
2010年 客員助教（ペンシルバニア大学）  
2020年 肝胆膵外科 講師  
2023年 肝胆膵外科 診療准教授（現在に至る）
5. 新たな外科学のエビデンスの創出を目指し、研究・臨床・教育を中心とした活動によって、今後の外科学の発展のために寄与できるように邁進して行く所存です。特に、外科医の研究に重点を置いて取り組んで参ります。
6. 新任

1. 榎本 剛史 2. 1969/12/4
3. 筑波大学消化器外科
4. 1995年 筑波大学医学専門学群卒業  
1995年 筑波大学附属病院 外科レジデント  
2004年 筑波大学大学院博士課程修了  
2012年 筑波大学消化器外科 講師  
2020年 筑波大学先進消化器外科 教授
5. 日本外科学会および千葉・茨城の外科医療のご発展のため、微力ながら貢献させていただきたいと存じます。よろしく申し上げます。
6. 新任

1. 松原 久裕 2. 1960/2/8
3. 千葉大学 大学院医学研究院 先端応用外科
4. 1984年千葉大学医学部卒、2007年千葉大学先端応用外科学教授。2008年より代議員、2012年より理事。2021年第121回日本外科学会定期学術集会会長。2022年より監事。
5. 理事として外科医を取り巻く諸問題に取り組み、外科学発展のため邁進し、皆様のご支援により第121回学術集会を盛会にて終了しました。監事としてこれまでの経験を礎に本学会の発展に今後も尽力して参ります。
6. 現職

1. 石崎 陽一 2. 1959/11/13
3. 順天堂大学医学部附属浦安病院
4. 1985年金沢大学医学部卒 1985年東京大学医学部附属病院第2外科 1994年東京労災病院外科 2004年順天堂大学医学部附属順天堂医院肝胆膵外科 2018年順天堂大学医学部附属浦安病院消化器・一般外科
5. 外科医不足、働き方改革、生涯労働時間の短さ、女性医師の増加、など解決しなければならない問題に直面しています。歴史ある学会の代議員として、こうした問題を解決できるように鋭意努力していく所存です。
6. 新任

1. 早野 康一 2. 1973/3/12
3. 千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学
4. 2000年千葉大学医学部卒業、千葉大学第二外科入局  
2006年千葉大学大学院博士課程 修了  
2015年千葉大学医学部食道・胃腸外科助教  
2018年千葉大学医学部先端応用外科学講師
5. 現在の外科治療成績の向上を目指した新しい工夫を創造し、世界に発信することを心がけます。また、その工夫を次代に伝えることで、持続的な外科学の発展に貢献したいと考えています。
6. 現職

1. 西野 仁恵 2. 1982/11/10
3. 千葉大学医学部附属病院
4. 2007年千葉大学医学部卒、2009年同大学の臓器制御外科入局、2021年より助教。2018年より東京医科大学に国内留学（3年）、腹腔鏡・ロボット肝胆膵手術を学び、日本内視鏡外科学会技術認定医を取得。
5. 患者様に低侵襲性と根治性が確保された外科学・手術手技を追求することを理念に、社会に信頼される次世代の外科医の育成にも尽力いたしますことで、微力ながら日本外科学会の発展に貢献できればと考えております。
6. 新任

1. 中台 英里 2. 1980/4/6
3. 君津中央病院
4. 2006年千葉大学医学部卒、2008年同大学臓器制御外科入局、2016年学位取得、2018年より助教として勤務し、2020年より現職。
5. 地域の外科診療を支えるとともに、社会に信頼される外科医の育成にも貢献しつつ外科学のさらなる発展を目指すことで日本外科学会の発展に貢献したいと考えております。
6. 新任

1. 長谷川博俊 2. 1962/3/13
3. 東京歯科大学市川総合病院
4. 1987年 慶應義塾大学医学部卒業  
1997年 英国バーミンガム大学外科  
2005年 慶應義塾大学外科専任講師  
2012年 慶應義塾大学外科准教授  
2020年 東京歯科大学外科教授
5. 私はこれまで主に消化器、大腸領域において臨床、研究、教育活動を行って参りました。  
また本学会においては2020年より国際委員会委員を拝命しております。今後も本学会の運営、発展に尽力したいと存じます。
6. 現職

1. 菱木 知郎 2. 1968/8/1
3. 千葉大学大学院医学研究院小児外科学
4. 1993年千葉大卒。千葉大学小児外科に入局、関連施設で研修、留学、千葉大学助手、講師、千葉県子ども病院主任医長、国立成育医療研究センター腫瘍外科を経て、2020年より千葉大学小児外科学教授、現在に至る
5. サブスペシャリティの小児外科学会では専門医制度委員長や機関誌委員長を歴任しました。Surgery Todayの査読も精力的に取り組んでいます。本学会の発展のために微力ながら貢献させていただき所存です。
6. 現職

1. 鈴木 秀海 2. 1976/10/24
3. 千葉大学大学院医学研究院呼吸器病態外科学
4. 2001年に千葉大学呼吸器外科教室に入局しました。2008年に学位を取得し、2010年から米国に留学しました。帰国後2012年から千葉大学呼吸器外科の助教、講師を経て、2022年より准教授です。
5. 現時点弱輩者にはなりますが、外科志望者の減少に危機感を強く感じています。敢えて年代の近い立場からの意見や橋渡しの役割であれば学会に役立てる部分があるのではないかと考えています。よろしく申し上げます。
6. 新任

1. 大平 学 2. 1971/4/14
3. 千葉大学大学院医学研究院先端応用外科
4. 平成8年、千葉大学医学部卒業。同年、千葉大学第2外科入局。平成16年医学博士取得。関連病院出張後、平成19年に帰局し、平成20年から千葉大学先端応用外科助教、平成27年から講師となり現在に至る。
5. 全国的な外科医減少時代の中で、医学部学生、研修医に外科を職業として選択してもらえるよう、外科の魅力の向上、外科勤務医の労働環境改善に微力ながら尽力致します。
6. 現職

1. 武之内史子 2. 1975/4/13
3. 千葉大学医学部附属病院
4. 2000年千葉大学卒、千葉大学小児外科入局。2007年千葉大学大学院博士課程修了。主に千葉県内の小児外科、外科で勤務のうち、2022年より千葉大学医学部附属病院助教として勤務。
5. 近年、ダイバーシティが当然のものとして社会から求められるようになってきていると思います。女性医師の立場から、また小児外科医の立場から、学会の活動に関わらせて頂きたいと思い、立候補しました。
6. 新任

1. 松井由紀子 2. 1969/4/30
3. 千葉大学医学部附属病院
4. 1995年に千葉大学卒業、2003年に学位取得し、その後千葉県がんセンター等で呼吸器外科医として勤務し、本年より現勤務先で特任助教として呼吸器外科業務と総合医療教育センター業務を兼務しております。
5. 私は、呼吸器外科医としての勤務を継続しながら出産時休暇を取得した経験があり、現在は医学教育にも従事しております。このたび本学会が目指す女性医師支援活動に自身の経験を活かせると考え、立候補いたしました。
6. 新任